様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０９４２

研究課題名（和文）生徒の運動技能の向上につながる教師の適切な働きかけに関する研究

研究課題名（英文）A study on teacher's appropriate approach to improve students' motor skill

研究代表者
深見　英一郎（FUKAMI, EIICHIRO）

早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授

研究者番号：１０３５１８６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、優れた体育教師は実際にどのような指導法や言葉を用いて指導しているのかを明らかにしようとした。これを踏まえ、各運動・スポーツの技術・戦術や動作の指導方法にフォーカスした指導書を作成したいと考えた。一方で、新型コロナウィルス感染症の蔓延により、運動部活動の指導者に変更することとなった。文科省のガイドラインをふまえて調査用紙を作成し、指導者が部員に対して適切なコミュニケーションを行い、部員の自主性を促しているかを検討した。その結果、目標はチーム全員で決定し、練習内容・方法は指導者が決定していた。また、そうした手続きを多くの部員たちは高く評価していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、優れたスポーツ指導者の指導法を明らかにすることにより、各運動・スポーツの技術・戦術や動作の指導法、言語にフォーカスした指導書を作成したいと考えた。それは、すべての指導者が自身の専門競技以外の運動・スポーツを生徒たちに適切に指導しなければならない。この指導書を活用することにより、多くの指導者が自身の専門外の運動・スポーツを含む、すべての運動領域について自信をもって指導することができ、運動の苦手な生徒をはじめとする、すべての生徒たちに運動技術を習得させ、彼らの愛好的態度を高めることができるようになると考えたためである。この点で、本研究の成果の学術的意義や社会的意義は大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to determine what language good physical education teachers use in their instruction. Based on this research, I decided to create an instructional manual for teachers focusing on the language of instruction in movement. On the other hand, a new type of coronavirus infection spread and prevented classroom research, so the study was changed to an instructor in the athletic department. Based on the "Guidelines for Guidance in Athletic Activities" presented by MEXT(2013), I developed a survey form regarding the leadership of athletic club activities. Specifically, I asked the leaders who determines the team's goals. In addition, the survey asked the leaders who decides the content of practice and how practice is conducted. The results showed that team goals were decided by all team members, while the content and methods of practice were decided by the leaders. In addition, many members of the team appreciated such procedures.

研究分野：スポーツ教育学

キーワード：優れた体育教師　スポーツ指導の手引書　部員の主体性　指導者の主導性　運動部活動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

学習指導要領が改訂され、指導内容が一新された。保健体育教師には、幅広い運動領域を生徒たちに対して適切に習得させるためのより専門的な知識・技術が求められるようになった。他方で、体育授業には運動が得意な生徒ばかりではなく、苦手な生徒や嫌いな生徒もいる。また、それぞれの教師には専門の運動種目があり、専門種目ではない運動・スポーツを適切に指導することは難しい。特に、技能面に関しては、つまずきのある生徒に対してどのように指導すればよいかがわからず、自信をもって指導することはできない。そこで本研究では、学習指導要領に示された内容（技術・戦術、動作など）について、技術指導のポイントごとに教師の適切な指導ことばを明らかにすることを目的とする。これにより、保健体育教師は、専門外の運動についても自信をもって指導することができ、すべての生徒たちに運動技術を習得させ、その結果愛好的態度を高めることができると考える。

本研究では、全国の都道府県教育委員会に電話にて問い合わせ、体育・保健体育授業の充実・発展に貢献したすぐれた保健体育教師を紹介していただき、彼らの体育授業を観察分析し、教師の適切な指導ことばを明らかにしようとした。特に、新学習指導要領に示された各運動領域の学習で習得が期待される内容（技術・戦術、動作など）について、技術指導のポイントごとの教師の適切な指導ことばの内容を明らかにする。中学校／高等学校 学習指導要領解説 保健体育編に示された多様な運動領域を網羅するために、初年度から２年かけて全国の各地区のすぐれた保健体育教師が勤務する学校を訪問し体育授業を観察・分析する。各授業後に授業を受けた生徒全員に体育授業及び授業中の教師の助言に対するアンケート調査を実施し、その対応関係を分析する。そして、３年目に実施したアンケート調査用紙の入力作業、テープ起こしした授業中の教師の発言内容（逐語記録）を詳細に分析し、生徒の形成的授業評価および教師の助言に対する生徒の受けとめ方との関係を分析する。また、授業中の教師の指導言葉に着目して、運動ができない生徒やつまずいている生徒に対して、具体的にどのような助言や課題提示を行い、それに対して生徒はどのような反応が見られるかを映像分析し、何が生徒のつまずきの克服や運動技能の改善につながったのかを究明しようとした。

しかしながら、当時は学内外の業務が膨大で、学期の平日に学校訪問できず当初の計画で研究を進めることができなかった。加えて、世界的規模で新型コロナウィルス感染症の蔓延状況となり、予定していた研究計画の変更を余儀なくされた。このような状況下で遂行可能な研究テーマ及び研究方法を探索した結果、研究対象を土日に対応できる運動部活動の指導者に変更してすぐれた指導法を検討することにした。

２．研究の目的

スポーツ指導者の役割は、競技者やチームの自発性の下、各々の関心、適性等に応じて安全かつ公正な環境において日常的にスポーツに親しむことをサポートすることと明記されている（文部科学省、2013a）。また「運動部活動での指導のガイドライン（運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議）」（文部科学省、2013b）では、適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促すことが求められている。これらをふまえ、実際に部活動の指導者が部員に対して適切な指導、コミュニケーションの充実等により、部員の意欲や自主性を促しているかを検討する必要がある。また、そのような部員の主体性を重視した部活動は部員に受け入れられているかを確認する必要がある。具体的には、指導者はチームの目標設定にどの程度関

与しているのか、またその目標はチーム内でどの程度共有されているか、さらに日々の練習計画・内容は、誰が決定し、どのように練習が進められているかを調査する。他方で、指導者の指導行為を部員はどのように受け止め、日々の運動部活動への取組をどのように評価しているかを部員による運動部活動の形成的評価票を用いて明らかにする。

３．研究の方法

表１は、指導者に対する運動部活動の運営方法に関する調査用紙を示した。本研究では、「運動部活動の運営に関する主導性」を「チームの目標に関する意思決定及びその共有化」と「練習計画・内容及び練習の進めかたに関する意思決定」の２つでとらえ、各運動部活動の運営に関わっての主導性の発揮のしかたについて質問した。チームの目標、練習計画 ・ 内容、練習の進めかたそれぞれについては、すべての部員と指導者が話し合って決定していること、また目標の共有化についてはすべての部員で共有していることが望ましく、そのようなチームが多くの部員からより高く評価されると予想した。

表２は、部員による運動部活動の形成的評価に関する調査用紙を示した。これは、各部員がその日の運動部活動の取組や指導者の指導行動を適切に評価するための調査用紙である。部員による運動部活動の形成的評価は３次元 15 項目から構成される。質問項目への回答は、「よくあてはまる（５点）」から「まったくあてはまらない（１点）」の５件法で回答させ、得点化した。評価因子別の得点は、「指導者との充実したコミュニケーション（25 点満点）」、「自主的・計画的な練習（25 点満点）」、「充実した取組による愛好的態度の向上（25 点満点）」、「総合評価（75 点満点）」とした。

表１　運動部活動の運営方法に関する調査（指導者用）

1）チームの目標はありますか（①ある ／ ②ない）
2）チームの目標は誰が決めましたか（※ 1) で「①ある」と回答した方）
　①指導者
　②指導者と一部の部員（主将，副主将など）
　③指導者とすべての部員
　④すべての部員
3）目標はチームで共有できていますか（※ 1) で「①ある」と回答した方）
　①すべての部員がチームの目標を共有している
　②一部の部員がチームの目標を共有していない
　③ほとんどの部員がチームの目標を共有していない
4）普段の練習計画や練習内容は誰が決めますか
　①指導者
　②指導者と一部の部員（主将，副主将など）
　③指導者とすべての部員
　④すべての部員
5）普段，部員たちはどのようにして練習を進めますか
　a. 指導者の直接的な指示や指導のもと練習に取り組む・・・・・・・・・①直接的指導
　b. これまでの練習で指導者が指導したやり方で，
　　部員たちが自主的に取り組む・・・・・・・・・・・・・・・・・②直接的方向づけ
　c. 指導者の用意した練習メニューを参考に，部員たちが練習内容を
　　選択したり方法を工夫したりして自発的に取り組む・・・・・・③間接的方向づけ
　d. 部員が自分たちの問題解決に向けて練習の内容や
　　方法を考え，自発的に取り組む・・・・・・・・・・・・・・・・・④自発的練習

表２　運動部活動の形成的評価に関する調査（部員用）

運動部活動に関する調査
今日の運動部活動の練習について質問します。
以下の質問に対して、もっとも当てはまる
数値**１つを○で囲んで**ください。
調査へのご協力をよろしくお願いします。

【基準表】
「よくあてはまる」・・・・・・・・・・5
「ややあてはまる」・・・・・・・・・・4
「どちらともいえない」・・・・・・3
「あまりあてはまらない」・・・・2
「まったくあてはまらない」・・1

1. 自分たちで考えて工夫しながら練習に取り組めた・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
2. 指導者はアドバイスをしてくれた・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
3. 具体的な目標（例えば回数，速さ，距離など）を持って練習に取り組めた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
4. 指導者は生徒のやる気を引き出してくれた・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
5. 思いっきり体を動かすことができた・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
6. 技術や記録が伸びた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
7. 楽しかった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
8. 指導者は納得のいく説明をしてくれた・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
9. だらだらせず練習に取り組めた・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
10. 指導者は生徒の声に耳をかたむけてくれた・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
11. 自分の競技がますます好きになった・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1
12. 試合を想定した緊張感のある練習に取り組めた・・・・・・・・・5-4-3-2-1
13. どうすれば上手くできるようになるかがわかった・・・・・・・・5-4-3-2-1
14. 指導者は練習や試合において生徒の意見を反映させてくれた・・・5-4-3-2-1
15. もっと上手くなりたいと思った・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4-3-2-1

４．研究成果

分析の結果、チームの目標は多くのチームが指導者とすべての部員が話し合って決定し、過半数のチームですべての部員が共有していた．また，練習計画・内容は多くのチームが指導者及び指導者と一部の部員で決定し、練習の進め方については指導者の指示や指導したやり方、または指導者が用意した練習メニューを参考にして自主的に練習に取り組んでいた。部員による運動部活動の形成的評価との関係から、指導者とすべての部員で目標を決定し、すべての部員が目標を共有しているチームの形成的評価得点が有意に高かった。また、練習計画・内容を指導者及び指導者と一部もしくはすべての部員で決定し、指導者の指示や指導したやり方、または指導者が用意した練習メニューを参考にして自主的に練習に取り組んでいたチームの形成的評価得点は有意に高かった。

生徒の自主的、自発的な参加により行われる運動部活動（文部科学省，2017）では、生徒たちが主体的に目標を立て、練習計画・内容を考えて決定し、取り組む資質・能力を育成することが望ましい。実際に、目標については、指導者とすべての部員で決定したチーム（部）の数が有意に多く、部員の形成的評価は高い傾向にあること。一方で、チーム目標を実現するための練習計画・内容は指導者及び指導者と一部の部員で決定する割合が高く、またそのような決定方法に関する部員の形成的評価は高い傾向がみられた。普段の練習の進めかたについては、ほとんどの部では指導者を中心に決定しており、部員だけで練習内容・方法を考えて自発的に取り組む自発的練習が、部員の形成的評価は最も低い傾向がみられた。これらの結果から、チームの目標について、部員は自分たちで話し合って決定することを良しとするが、実際にそれを達成するための練習方法については指導者の主導性に期待していることが示唆された。これは、多くの部員が自分たちのチームに必要な技術・戦術や練習内容・方法に関して十分なイメージやアイデアを有していないことが原因として考

えられる。

＜文献＞

文部科学省（2017）中学校学習指導要領 総則　平成 29 年 3 月,
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/6/21/1384661_5.pdf

文部科学省（2013a）スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）報告書. 私たちは未来から「スポーツ」を託されている―新しい時代にふさわしいコーチング―. スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議.

文部科学省（2013b）運動部活動の在り方に関する調査研究報告書～一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して～ . 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議.

スポーツ庁（2018）運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議（第 6 回）. 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン骨子（案）資料 http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2018/01/18/1400449_1.pdf.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 FUKAMI Eiichiro、OKADA Yusuke、INOUE Kazuhiko	４．巻 67
２．論文標題 Feasibility of player's independence on school athletic teams:	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Taiikugaku kenkyu (Japan Journal of Physical Education, Health and Sport Sciences)	６．最初と最後の頁 343～360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.21007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 OKADA Yusuke、TOMOZOE Hidenori、FUKAMI Eiichiro、YOSHINAGA Takeshi	４．巻 40
２．論文標題 A study of promotive method to develop Olympic and Paralympic Education from the Teacher’s view	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Japanese Journal of Sport Education Studies	６．最初と最後の頁 31～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7219/jjses.40.2_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 友添秀則,深見英一郎,吉永武史,岡田悠佑,東海林沙貴,竹村瑞穂,根本想,小野雄大,梶将徳,青木彩菜,安田純輝	４．巻 17
２．論文標題 2018年度におけるオリンピック・パラリンピック教育実践の取り組み: 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの担当地域に着目して	５．発行年 2020年
３．雑誌名 スポーツ科学研究	６．最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 深見 英一郎, 井上 一彦	４．巻 64-1
２．論文標題 運動部活動における指導者の主導性に関する意識と部員の形成的評価との関係	５．発行年 2019年
３．雑誌名 体育学研究	６．最初と最後の頁 369-384
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.18017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡田 悠佑，友添 秀則，深見 英一郎，吉永 武史，根本 想	4．巻 39-1
2．論文標題 オリンピック・パラリンピック教育に関する教員研修の効果検証	5．発行年 2019年
3．雑誌名 スポーツ教育学研究	6．最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7219/jjses.39.1_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 深見 英一郎、井上 一彦、岡田 悠佑
2．発表標題 部員の主体性を保障する指導の在り方：高校野球における選手選考を事例にして
3．学会等名 日本体育・スポーツ・健康学会 第71回大会　筑波大学
4．発表年 2021年

1．発表者名 EIICHIRO FUKAMI
2．発表標題 Disirable players selection in the high school baseball championship
3．学会等名 Secretariat of the 2020 Yokohama Sport Conference, September 2020(Online)（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 深見英一郎，　井上一彦
2．発表標題 試合に向けた望ましい選手選考の在り方: 高校野球を対象にして
3．学会等名 日本体育学会
4．発表年 2019年

１．発表者名 深見英一郎
２．発表標題 試合に向けた望ましい選手選考の在り方：運動部活動におけるチームスポーツを対象に
３．学会等名 第69回日本体育学会 体育心理学専門分科会 ポスター発表
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉井捷人・深見英一郎・友添秀則・吉永武史
２．発表標題 体育授業における「主体的・対話的で深い学び」を促す教師行動に関する研究
３．学会等名 第38回日本スポーツ教育学会 一般発表
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 日本体育科教育学会	４．発行年 2021年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 144
３．書名 体育科教育学研究ハンドブック	

１．著者名 伊藤雅充/土屋裕睦/実践!グッドコーチング制作プロジェクト	４．発行年 2022年
２．出版社 PHP研究所	５．総ページ数 63
３．書名 実践!グッドコーチング・レベルアップ編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関